

各種大会に向かって頑張ってきた生徒たちへ（校長より）

令和2年5月19日（火）

原町第二中学校校長 和田節子

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、中体連の全国大会、県大会、相双地区大会、そして吹奏楽のコンクールが次々と中止になりました。

これは、感染症から命を守るための措置です。多くの人が集まる大会やコンクールは、3つの密を避けることが難しく、感染のリスクが高くなります。ましてや、治療する薬や予防のためのワクチンもない今の状況では、開催することは難しいと思います。

中学校生活最後の大会に向けて練習に励んできた3年生にとっては、悔しいし、悲しいし、やり場のない気持ちだと思います。今まで何のためにやってきたのだろうと思っている人もいるかもしれません。1、2年生にとっては、先輩から学び、先輩と共にチームを創り上げていく貴重な機会が失われようとしています。

中学生にとって部活動とは、自分の個性や可能性を伸ばしていく場であると同時に、様々な体験や出会いを通して、多くのことを学び、感動や達成感や連帯感を生み出していく場だと思います。汗を流し、知恵を出し、声を掛け合いながら、日が暮れるまで取り組む毎日の練習。プレッシャーや緊張感で押しつぶされそうになりながら迎える大会の朝。体力も精神力もギリギリの状態まで自分を追い込みながら挑み続ける大会本番。勝ったとき、入賞した時の喜び、負けたときの悔しさ。競い合うライバル、声の限りに応援してくれる友、期待を込めて送り出してくれる家族、更なる高みをめざして熱心に指導してくれる先生。部活動だからこそ経験できるこうした貴重な機会が失われてしまうことが残念でなりません。

しかし、日本中、いや世界中の若者たちが今、同じような境遇にいることも忘れてはなりません。オリンピックは1年延期になりました。インターハイも中止。そして夏の甲子園大会も中止になる見通しです。これらの大会に照準を合わせて、多くの人たちが何年も努力を続けてきました。その選手達は、この事態をどう捉えているのでしょうか。また、この逆境をどのように乗り越えようとしているのでしょうか。

東京オリンピックの代表入りを確実にしていた、サーフィンの五十嵐カノア選手は次のように話しています。

「サーフィンは海との戦いでもあるし、プレッシャーやほかの選手との戦いでもある。自分がコントロールできることは準備しかない。」つまり、自分の力で自然をコントロールすることはできないし、対戦相手をコントロールすることもできない。自分がやるべきことは、本番に備えて日頃の練習をしっかりとしておくことだけだ、ということだと思います。

サーフィンは、東京オリンピックで初めて採用される競技です。五十嵐選手は、2019年に日本選手で初めて世界最高峰のツアー大会、チャンピオンシップツアーで優勝し、年間ランキングで6位に入りました。サーフィンの魅力を世界の人たちに伝え、多くのファンを獲

得したいと張り切っていました。そうした中での延期は、本当に悔しかったろうと思います。

プロ野球広島カープの大瀬良大地投手は、「いつか来るその日のために備えた者だけにチャンスが訪れる」と言っています。

テニスの大坂なおみ選手は、「ベストを尽くして頑張っていれば、必ずチャンスがめぐってくる」と言っています。

そして、競泳の瀬戸大也選手は、「スタート台に立ったときには、誰が金メダルか決まっている」と言っています。

試合が延期になったり中止になったりして悔しくない選手はいません。しかし、一流の選手達は、自分がすべきことをもう決めているのです。そして、次への準備を始めているのです。

トップ選手の言葉をもう一つ紹介します。次の言葉を言った人は誰か考えてみてください。「(自分が) 誇れることは、2001年の最初から2019年の最後まで、日々の難題を克服し、日々情熱を持ち続けられたことだ」答えは、昨年引退したイチロー選手です。数々の記録を打ち立てたイチロー選手が、最も誇れることとして、「毎日情熱を持ち続けたこと」を挙げたのです。皆さんはどう思いますか。結果や記録を誇るのではなく、その陰にある日々の積み重ねを誇りとしたことに、私は感動しました。

3年生の皆さん、全てが終わったわけではありません。高校へ進学してからも部活動はあります。その時のために、今は全国の中学3年生と共にしっかり準備をしておきましょう。また、これから入部してくる1年生のために、伝えておかなければならないこと、残しておかなければならないものもあるはずです。皆さんが先輩から受け継いだバトンを後輩達にしっかりと手渡してください。

1, 2年生の皆さんは、技術やルールやマナーや部活動への情熱をしっかりと3年生から引き継いでください。原町二中の伝統を絶やすことなく、一人一人の手で守っていきましょう。明日の放課後、部活動のミーティングを行います。これから自分たちはどうしたいのかをしっかりと考えておいてください。

最後になります。「壁もあったが、扉もあった」これは、フィギュアスケートの羽生結弦選手の言葉です。今は壁だらけのように思えるかもしれませんが、必ずどこかに扉があります。その扉を探しましょう。見つからなければ自分たちで扉を作っていきましょう。

腐らず、へこまず、自分にできることを毎日コツコツ積み上げていきましょう。困難な状況にも、強く、しなやかに立ち向かうことのできる皆さんであることを期待しています。